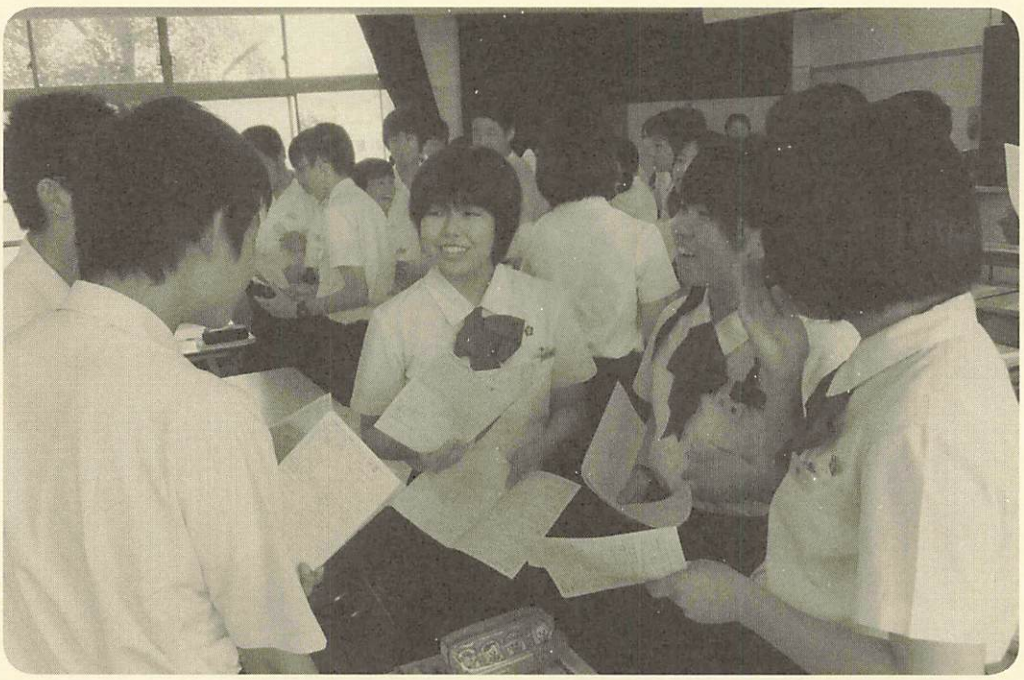
社会科

教科領域研究テーマ

【社会を形成していく力の育成

— 関わり合い，互いに考えを

深め合う言語活動を通して —】



社会を形成していく力の育成

―関わり合い，互いに考えを深め合う言語活動を通して―

実　践　者　西田　剛志，田中　寿佳，宮本　真人
共同研究者　愛媛大学教育学部　川岡　勉，森　貴子，矢澤　知行，張　貴民
川瀬久美子，魁生由美子，松野尾　裕，蓜　卓三
鴛原　進，福田　喜彦，中曽　久雄

第１章　はじめに

１　研究テーマ設定の理由

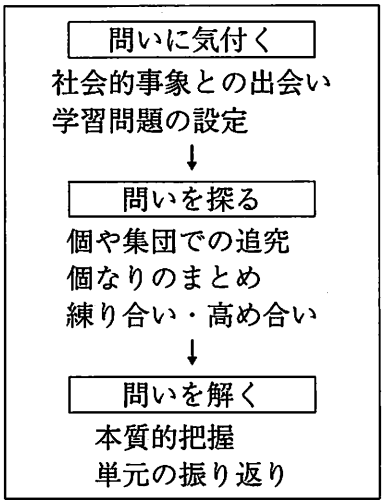
本校社会科では，共生の視点をもちながら，持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる力を，「社会を形成していく力」と捉えた。この力の育成は，社会や情勢が目まぐるしく変化する現代において，持続可能な社会を築くためのいわば幹となるものだと考える。これを育成するためには，社会科の授業を通して，社会的事象について多面的・多角的に考察させ，社会的な見方や考え方を習得・活用させながら，それを広く深く成長させていくことが大切である。そして，その上で，持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動していこうとする意欲などを高めていく必要がある。そのためには，これまで研究を進めてきた問題解決的な学習をいかに充実させるかが重要である。なぜなら，問題解決的な学習では，授業を通して得た見方や考え方が課題解決のために役立つことを体験し，それにより，学ぶことや学んだことを生かすことの楽しさを味わわせることができるからである。これを達成するためには，質の高い言語活動及び生徒相互の関わり合いを保障することが大切である。そこで，生徒が主体的に問題解決に取り組む中で，相互に生き生きと関わり合いながら，社会的事象の意味や意義についての理解及び自らの在り方や生き方についての考えを深めていく社会科学習を展開したいと考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の方法と内容

(1)　問題解決的な社会科学習の充実

昨年度までの研究成果から，社会的な見方や考え方は，社会的事象について，生徒が自ら主体的に問いをもち，進んで調べたり考えたりして，適切に表現する問題解決的な学習において効果的に育成されると考える。この問題解決的な学習において，各種の資料を収集・選択・活用させたり，問題解決に適した調べ方や順序を考えさせたりしながら自ら計画的に問題を追究する力を養う。また，社会的事象を多面的・多角的に捉えさせることを通して，その事象のもつ意味や意義をより広い視野から考えさせたり，見方や考え方を広げ深めさせたりすることによって，公正な判断をし合理的な意思決定をする力を養う。

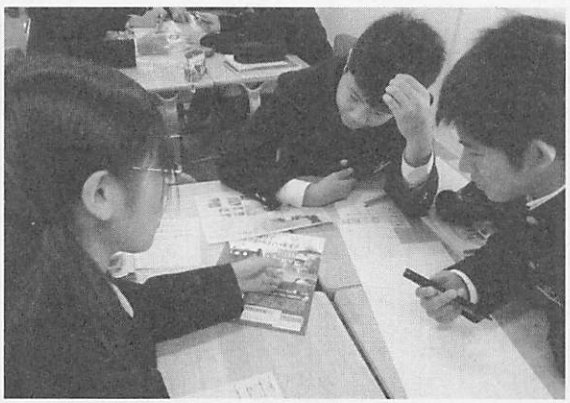
このために，教材を工夫したり問いの質を向上させたりして，単元を通して強い問題意識をもって主体的に問題解決に取り組ませる。また，各学習過程のもつねらいを確実に達成し，学習が進むにつれ確実に社会的な見方や考え方を成長させられるよ



単元の基本的な学習の流れ

う，単元構成や学習指導方法を工夫する。と同時に，自らの学びを振り返る場面を効果的に設定することにより，生徒自らの自己内対話ができる場面を保障する。この「果たして本当にそうなのか」と自ら問う自己内対話による社会的な見方や考え方の変容こそ，社会的思考力や社会的判断力が育っているという状況であり，これらの力によってより社会的な意思決定がなされ，社会生活の様々な場面に生きて働く力が培われると考える。

(2) 言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実



問題解決的な学習においては，特に自分の追究成果を基にそれを友達と練り合い高め合うことによって，自分の見方や考え方を広げることができると考えている。この練り合い高め合う場面において，根拠を明確にさせたり，相手意識・目的意識をもって効果的に表現させたり聞かせたりする経験を通して，他に積極的に働きかける表現力や行動力を育む。また，集団で追究成果を練り合い高め合う経験を通して，協働学習者である友達から，自分とは異なる見方や考え方及び自分と同調的な見方や考え方などを学ぶ力を養う。

このために，単元及び授業の適切な段階で共創場面や合意形成場面など，生徒どうしが関わり合う場を効果的に設定する。そこでは，生徒一人一人が根拠を明確にして，自分の追究過程や成果を積極的に発言できるように，表現方法や学習形態等を工夫する。また，思考・判断を促すような教師の問いかけや話合いのテーマを工夫することにより，生徒相互の考えをつなぎ深め，関わり合いの質の向上を図る。また，ここでも，他者との関わりを通して得た学びを振り返らせる場面を重視する。

(3) 豊かな自尊心・自尊感情の醸成



前述(1)の「自己内対話」ができるためには，学習において自らが獲得した見方や考え方を自ら客観的に捉えられなければならない。このことは，学習を通して広がり深まった生徒自身の社会的な見方や考え方をしっかりと見つめさせるということであり，自分の成長を振り返るということである。また，前述(2)の生徒どうしの関わり合いを充実させるためには，自分の伝えたいことを他者に分かってもらえているという実感，及び，他者の伝えたいことが確実に分かるという実感が伴わなくてはならない。この社会科学習における「自分の成長を振り返る」「自分の伝えたいことを分かってもらえる」という経験の積み重ねは，本校の重点目標である「豊かな自尊心・自尊感情の醸成」にアプローチしていくための有効な手段であると考える。

各学習段階での振り返りの場面や生徒どうしの関わり合いの場面を充実させることについて，生徒の思考を可視化し自他ともに見取りやすくするなど，自尊心・自尊感情の醸成という視点で再考し，さらに充実を図る。

第２章　研究の実際

研究（その１）

地理的分野「世界と比べた日本の地域的特色」の実践より

（実践者）西田　剛志

１　本単元の概要

(1)　単元目標

観　点	単元目標（評価規準）
社会的事象への関心・意欲・態度	○　世界と比べて見た日本の地域的特色と日本国内の諸地域の特色に対する関心が高まっている。 ○　世界的視野から見た日本の地域的特色を，また，日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を，自然環境，人口，資源･エネルギーと産業，地域間の結び付きの面から課題意識をもって意欲的に追究しようとしている。
社会的な思考・判断・表現	○　世界的視野から見た日本の地域的特色を，また，日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を，世界と比較し関連付けて考察している。 ○　我が国の国土の地域的特色を明らかにする視点をもち，考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり，説明したりしている。
資料活用の技能	○　課題の追究に必要な地図や統計資料を収集し，読み取り，統計のグラフ化や地図化などを通して，有用な情報を適切に選択して活用している。 ○　様々な地理的情報を，空間的に認識し主題図上に整理することができる。
社会的事象についての知識・理解	○　多面的・多角的に世界と比較し関連付けて捉えた日本の地域的特色を理解している。 ○　傾向性と類似性に着目して国内の諸地域の特色を理解している。

(2)　単元設定の理由

本単元は，世界的視野から日本を一つの地域として取り扱ったり，日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりすることによって，我が国の国土の特色を様々な面から大観させることを主なねらいとしている。その際，世界の様々な地域の学習成果を生かしながら，自然環境，人口，資源・エネルギーと産業，地域間の結び付きの四つの事柄から，日本を一つの地域として理解させるようにすることで，多面的に見る態度を養うことができる。また，四つの事柄として取り扱う地理的事象が，七つの地方区分を越えた大まかな地域差を理解しやすい内容であることから，次の単元において日本の諸地域の特色を捉えさせる学習につなげる上で重要である。

本研究を実践した第２学年の学級には，地理的分野の学習に対して，高い興味・関心を示す生徒が多い。前単元の「日本の地域構成」では多くの生徒が，地球儀や資料集，地図帳を活用したり，日本の領域を地図に示したりしながら，生活体験と関連付けて時差を理解し，日本の位置について認識することができた。また，ニュースなどで得た知識を基に，日本の領域の特色と変化について積極的に発表する生徒が半数以上見られた。本単元の「世界と比べた日本の地域的特色」でも，これら生徒の地理的技能や関心，知識が生かされることが期待された。また，本学級は，生徒どうしの仲もよく，小集団での学習で意見を出し合い作業を進めることができていた。そこで，

この生徒のよさを生かせるよう，小集団で練り合い高め合う場面を多く設けたいと考えた。

(3) 指導の工夫

本実践において本領域の研究テーマ及び本校の重点目標に資するために，前述の１章２の研究の内容と方法から，本単元では次のように指導の工夫をした。

① 問題解決的な社会科学習の充実

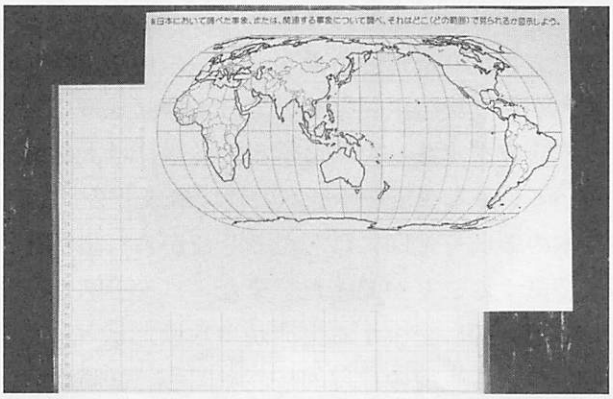
問題解決的な学習を充実させるために，単元の導入段階での社会的事象との出会わせ方の工夫と，学習展開の工夫をした。

まず，単元の導入段階では，社会的事象との出会わせ方の工夫として，生徒が問題意識をもつとともに単元全体を通して社会的な見方や考え方を身に付けられるような資料を提示した。本単元では，生徒自らに日本の地域的特色には多様性があることに気付かせることを意図した様々な景観写真や新聞記事を用いた。これは，この単元が日本の諸地域の特色を，自然環境，人口，資源・エネルギーと産業，地域間の結び付きの面など，様々な視点から捉えさせることをねらっていることによる。また，学習問題「日本ってどのような特色をもった国？『○○な国，日本！』で表現しよう」というように，「○○な国，日本！」という定型文で予想させた。これにより生徒は，定型文という短い文章にまとめようとする中で，かえって説明を要し，根拠となる資料の必要性に気付き，問題意識をもって主体的に調べようとするのではないかと考えた。

次に，学習展開の工夫として，単元のはじめに設定した学習問題について追究していく過程で，生徒に「果たして，本当にそうなのか」と自らに問い直させ，思考を揺さぶるような発問を投げかけるようにした。本単元では，日本の地域的特色を追究していく過程で日本に見られる地理的事象のみを調査対象としていた生徒に，「世界」という新たな視点を与えた。これにより生徒は，日本を対象に集めていた資料について，世界との比較という視点で再検証したり，他の有用な資料を求めたりするのではないかと考えた。

② 言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実

言語活動を充実させるために，問題解決学習を追究する過程で，練り合い高め合う場面の設定を工夫した。本実践では，まず，生徒が小集団ごとに設定した視点から問題解決のために必要な情報を地図帳や資料集，地球儀，携帯情報端末等を活用して収集させた。そして，それを基に，生徒が協働学習者として互いに関わり合いながら有用な情報を共有し合う場面を設定した。その際，コミュニケーションボードを活用させた。このコミュニケーションボードは，小集団での活動時に使用することを目的に作成したものである。材料はＡ３版クリアファイルに，同じくＡ３版枡目入り工作ボードのみで，量販店で安価（150円程度）に購入できるものである。このまま使えば，従来のホワイトボードと同じであるが，白地図や図，定型文などのフォーマットを印刷したワークシートを挿入することで，協働学習者がコミュニケーションを図りながら，学習課題に基づいて要領よく問題解決学習に取り組むことができると考えた。後述の本時においても，生徒各自が収集した情報をコミュニケーションボードの白地図に整理させることで空間認識としての地理的技能を養ったり，思考を整理させる中で新たな課題を見いださせて地理的な見方や考え方を身に付けさせたりすることをねらった。



コミュニケーションボードの作成

③ 豊かな自尊心・自尊感情の醸成

豊かな自尊心を醸成するために，学習活動全体を通して，それぞれの生徒が小集団ごとであるいは，学級全体で役に立っている，必

要とされていると，有用感を感じ合えるような学習展開の工夫をした。前述①の問題解決的な学習においては，生徒が作成した地図などを，関連する小単元での導入で活用したり，②の言語活動で生徒が収集した情報を地図に整理し合わせたりするなど，学習成果を可視化しておき，それ以降の学習で互いに活用し合わせた。

(4) 指導計画（全17時間）

主　題　名	時間	主　題　名	時間
1 「○○な国，日本！」	2	4 資源・エネルギーと産業の特色	5
世界と比べた日本の特色を見いだそう	(本時その2)	5 地域間の結び付きの特色	2
2 自然環境の特色	5	6 日本の地域的特色を大観しよう	1
3 人口の特色	2		

2 研究の実際（2／17時間）

(1) 主題名「○○な国，日本！」世界と比べた日本の特色を見いだそう

(2) ねらい

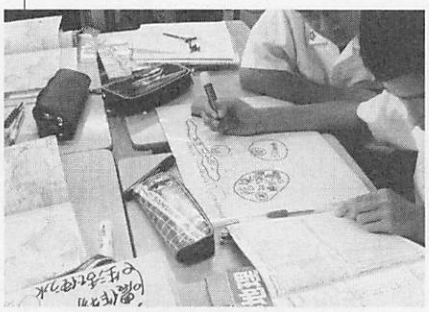
○ 世界の様々な地域の学習の成果を踏まえて，比較したり関連付けたりしながら思考を整理し，課題意識をもつ。

○ 小集団学習において，日本について様々な視点から集めた情報を白地図に整理し合いながら空間として認識し，地域的特色を多面的・多角的に考察しようとする。

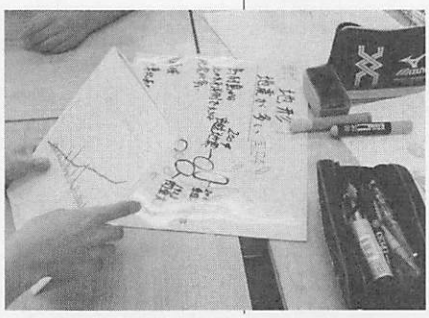
(3) 展　開

学習活動（形態）	具体的な学習の流れと生徒の反応（●）	○指導の工夫　◇評価（方法）
1 本時の学習問題を把握する。 （一斉） 問いに気付く	日本の様々な景観写真・新聞記事 自然風景　都市の景観　産業の様子 過疎・過密の様子　自然災害　貿易 日本ってどのような特色をもった国「○○な国，日本！」で表現しよう 「自然環境」「資源・エネルギーと産業」「人口」「地域間の結び付き」 ↓　の視点から	○課題意識をもって学習に臨ませるために，日本で見られる様々な事象の写真や新聞記事を提示し，課題意識をもたせるとともに，日本を様々な側面から捉えられるよう意識させた。
2 問題を追究する。 問いを探る	〔各班が具体化した視点〕 ●自然が豊かな国　●地震が多い国 ●雨がよく降る国　●過ごしやすい国 ●首都を中心に人口が多い国 ●産業が発達した国 ●貿易が盛んな国　●自給率が低い国	○前時で班ごとに設定した視点を基に集めた情報を共有させるとともに，空間的に認識させるために，白地図を使ったコミュニケーションボードを用いた。

① 日本で見られる事象を地理的事象として整理する。 （小集団）	○根拠となる事象は日本のどこで見られるのか各自の情報を白地図に整理しよう。 ●雨がたくさん降るところ ●山がちなところ　　など ○白地図に整理して，気付いたことを話し合おう。 （例）視点「自然環境（地形）」 ●太平洋側は雨が多い……地域性 ●全体的に山がちである……一般性	○地理的な見方や考え方を養うために，それぞれの視点ごとに更に各自で調査項目を決めさせ追究させた。



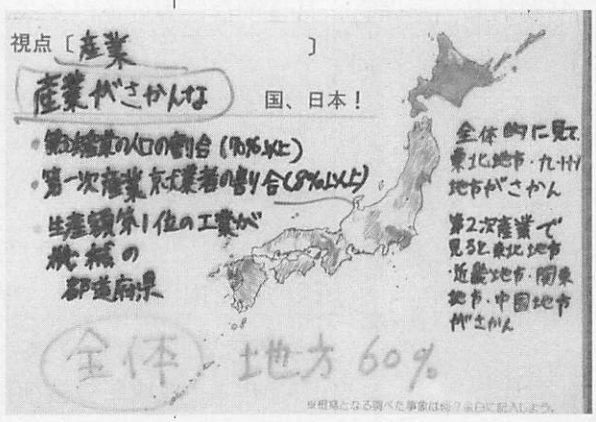
各自で集めた情報を一つの白地図に整理する場面



資料を根拠に説明する様子

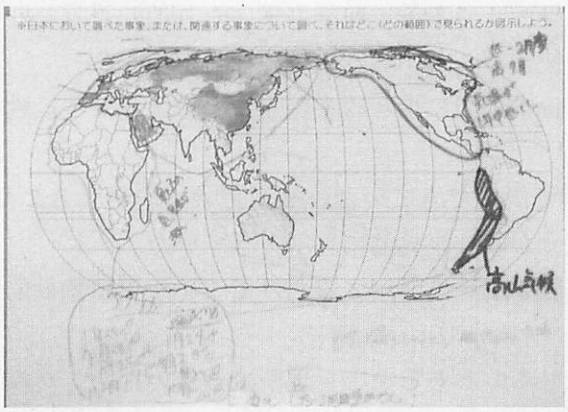
○調査結果について，収集した資料を根拠にして，説明させた。

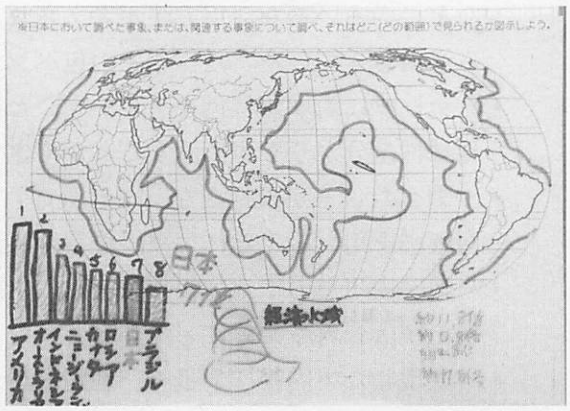




日本について調べた情報を整理した地図（一部）

② 日本で見られる事象を世界の中での地理的事象として調べさせる。 （小集団） 問いを解く	○「○○な国，日本！」を世界と比べてみると，どのような日本の地域的特色が見えてくるのだろう？日本で見られる事象は，世界の他の地域では見られないことなのか，調べよう。 ●四季の変化は，温帯にのみ見られる。 ●降水量が，世界的に見ても多い。	○日本の地域的特色を見いだす視点として，世界との比較をさせた。 ○地理的な見方や考え方を養うために日本と世界との地理的事象の関係に注目させ，問いをもたせた。





日本と同じ視点，同じ調査項目で，世界について調べ整理した地図（一部）

3　問題を追究した結果を整理する。　（一斉）	○調べたことを日本や世界の白地図に整理したり，他の視点と関連付けたりする活動を通して，疑問に思ったことや考えたことは何ですか？ ●なぜ，人口が多いところと工業が盛んなところが重なっているのだろう。 ●日本は山がちな地形が，世界的に見ても山地が偏っているのはなぜだろう。 ●日本は自然災害が多いにもかかわらず，人口が多く，産業が発達しているのはなぜだろう。	◇日本の地域的特色について，世界との比較における様々な面から捉えたり，空間的な広がりで捉えたり，その理由を考えたりしながら追究しようとしたか。 （観察・ワークシート）

3　成果と課題

(1)　研究協議より

本実践における公開授業での研究協議において参会者から次の意見を得た。これを前述１本単元の概要(3)指導の工夫の項目ごとに次に挙げる。

①　問題解決的な社会科学習の充実

- 「○○な国，日本！」での表現は，生徒にとって表現しやすかった。また，その理由を主体的に資料を探して追究しようとする姿が見られた。どの生徒も，課題に沿って見通しをもって意見を出したりまとめたりしていた。
- 導入で，様々な日本の景観写真を見せたことは，日本の特色を多面的に捉えさせようとする学習展開に効果的であった。日本の多様性に気付かせ，そこから一つの学習問題に共有化させる方法が，生徒の思考を効果的に導いていた。
- 日本から世界へと視点が変わる時に，「なぜ，そのような分布になるのか」までは，考えが至っていなかったためか，世界との比較の視点が絞り切れていないようであった。「日本から世界へ」の展開よりも，「世界から日本へ」の展開の方が，特色をつかみやすかったのではないか。

②　言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実

- コミュニケーションボードのアイデアが参考になった。地図やワークシートとの併用

など，いろいろな活用方法が考えられるツールである。何度も書いたり消したりしながら活用できていた。たくさんの色ペンが使えることから，表現の仕方が広がる。

- テーマに沿った特色をグループごとに日本地図にまとめていたことにより，一般性と地域性を分かりやすく示すことができていた。
- 調べたことが根拠となって自分の言葉で説明できていた。文章だけで説明するより，白地図を用いることにより，位置関係が分かり，視覚的に理解できていた。
- 地図表現なので地図帳や教科書の主題図を上手に活用するだけでなく，更に意欲的に他の統計資料も参考にして調べていた。
- 表現したい内容によって，地図表現がいろいろあることを理解できていたし，グラフと併用したり色分けしたりと，自由な表現活動ができていた。
- 情報過多であったようだ。ただ，白地図に書くだけの生徒もいた。また，全体での学習の際，文字が小さくなりがちで，見えづらい。

③ 豊かな自尊心・自尊感情の醸成

- 小集団では，そつなく情報を白地図に整理し，自信をもって報告していた。聞く側も真剣に資料を見て聞き入っていた。
- 全体では声が小さかったようである。

(2) 研究の成果と今後の研究の改善に向けて

本実践では，導入段階を工夫することで生徒の主体的な追究活動を促す問題意識をもたせることができた。特に「○○な国，日本！」と，大まかではあるが短い定型文として表現させたことは，視点を明確にして問題解決的な学習で課題追究することにつながっていた。併せて，社会的事象を表現するためには，根拠となる資料などの情報の必要性を感じさせることができた。これらは，主体的な追究活動の一つと言えよう。

また，言語活動を充実させる学習展開にすることで，生徒は他者の意見を聞いて自分の考えを深めたり，自分なりに解釈した事を他者に説明したりと，相手意識や目的意識をもって学習に臨み，学習をより深めることができることが分かった。今回コミュニケーションボートを用いたことで，生徒は視覚的に情報を共有することができた。これにより，幅広い言語活動につながった。昨年度の研究では，携帯情報端末を授業で用いたが，デジタル化し，膨大かつ広範囲に及ぶデータを，的確に読み取らせることができているかどうか，課題が残った。今回，収集した情報をアナログ化し，白地図などへ自分なりの言葉で表現させる活動を取り入れたことで，地理的認識を深めることにも有効であったと考える。

今後の研究の改善としては，今回，社会科学習でのコミュニケーションボートの有効性が確認されたことから，白地図以外にも，歴史的分野や公民的分野でも，追究成果等を図式化して整理したりグラフ化したりするなど，様々な活用方法を工夫し，言語活動を活発化させ，思考力や判断力などを養いたいと考える。また，自尊心・自尊感情の醸成については，十分な検証ができているとは言えない。活動の成果を可視化することの有効性も示されたので，評価の工夫により，これを充実できるようにしたいと考える。

研究（その2）

歴史的分野「古代までの日本のまとめ」と「中世の日本の導入」の実践より

（実践者）田中　寿佳

1　本実践の概要

(1)　各単元における実践内容

古代までの日本は非常に長い期間に及ぶため，前後半に分け，本実践では，奈良～平安末期までを扱った。古代までの日本（後半）のまとめとして，その時代の特色をイメージ画で表現させ，それを互いに説明させる活動を通して，時代の特色を自分の言葉で文章にまとめさせるようにした。中世の日本の導入では，大まかに捉えた中世のイメージから中世の幹となる事象を見いださせ，学習の課題意識をもたせるようにした。

(2)　指導の工夫

本領域の研究テーマ及び本校の重点目標に資するために，前述の１章２の研究の内容と方法から，本実践では次のように指導の工夫を設定した。

①　問題解決的な社会科学習の充実

主体的に問題解決に取り組む態度を育成するため，中世の導入時に時代の特色を捉えるための課題意識をもたせたいと考えた。そのために本単元では，「戦い」という視点に絞って中世のイメージをさせ，主体的に問いをもてるようにした。そして，中世は，なぜ戦いが多いのかを古代までの日本の特色や小学校での学習を活用して予想させた。そして，予想したことが中世を通して時代の特色を捉える鍵となっているのかを確認するためには，どんなことを調べればよいのかも考えさせた。その後の授業の中で，最初に予想した鍵がそれぞれの社会的事象とどのように関わっているのかを生徒が検証していく展開とした。

②　言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実

古代のまとめにおいて，古代の特色を各自にイメージ画で表現させ，生徒どうしが互いに説明し合う活動を取り入れた。その際に，なぜそのように表現したのかを相手に伝わるように自分の言葉で表現させたり，相手の考えをくみ取るように意識して説明を聞かせたりすることが他に積極的に働きかける表現力や行動力の育成につながると考えた。また，自分にはなかった友達の視点を取り入れ，総合して時代の特色を文にまとめさせることで，時代の特色をより多面的・多角的に捉えさせるようにした。

中世の導入においては，なぜ中世は戦いが多いのかを二つの立場から考えさせ，異なった立場の生徒どうしで話し合わせた。その後，全体の場でそれぞれの立場から出た意見をつないでいく中で，単元の幹となる事象を見いださせるようにした。

③　豊かな自尊心・自尊感情の醸成

友達に自分の考えを分かってもらえた，友達の考えが分かったという実感や互いの個性を認め合えたと感じさせることで豊かな自尊感情を育みたいと考え，上記②の古代のまとめの活動において，相手のイメージ画の説明を聞いて，必ずよいところを本人に伝えさせるようにした。また，学習を通して，単元の導入時と比べて，時代の特色をより多面的に捉えられ，イメージが豊かになったかを確認させることで，自分の成長を振り返らせるようにした。

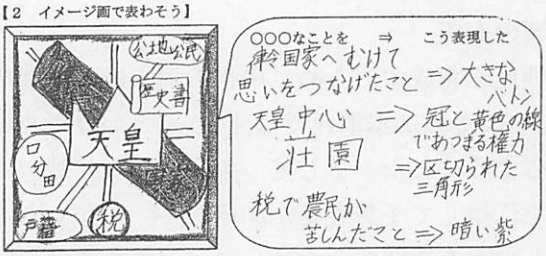
2　研究の実際

(1)　古代までの日本のまとめ

①　ねらい

イメージ画を説明し合う言語活動を通して，古代の特色を多面的・多角的に捉え，自分の言葉でまとめる。

②　展開

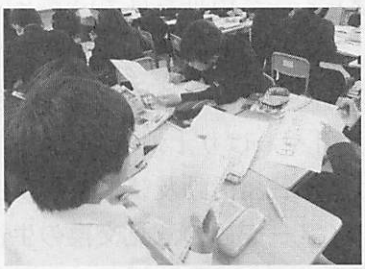
学習活動（形態）	時間	○教師の発問 ・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価
1　イメージ画の説明の練習をする。　（個人）	5	○聞く人に分かりやすくイメージ画を説明する練習をしよう。 ・声に出して練習している様子	○根拠をもって説明できるように自分の考えをまとめさせ，聞き手に分かりやすく伝えることを意識させた。
2　イメージ画の説明をし合う。 （班→任意の小集団→全体）	35	○イメージ画の説明をしたり，聞いたりして意見交換しよう。 【2　イメージ画で表わそう】  生徒が作成したイメージ画	○自尊感情を醸成するため，必ず友達の考えや説明のよいところを見付けて伝えさせるようにした。 ○多様な見方や考え方に触れられるように，活動の形態を変化させ，自分になかった考えを記録させた。
3　古代までの特色を自分の言葉でまとめる。 （個人→全体）	10	○自分の考えに友達の視点も取り入れ，古代の特色を文にまとめよう。 【3　まとめて自分の言葉で表現しよう】 つまり、古代までの日本・後半は 律令国家へのバトンをつなぎ大宝律令(701年)で完成した。権力の集中も完成。荘園が生まれ貴族だけがもうかる社会になり、貴族が日本独自の文化を生みだした。外国にたよらず、自立したといえる。また、仏教が社会に影響した。　友達の視点も取り入れてまとめることができた 生徒がまとめた文	◇古代の特色が多面的・多角的に捉えられ，自分の言葉で書けているか。 （ワークシート）
4　自己評価を行い，活動や自己の成長を振り返る。　（個人）	5	○活動を振り返ろう。 ・学習前は（古代が）すべて日本でできた感じだったけれど，学習後は外国のことをアレンジしてつくった日本と感じるようになった。	○学習を通しての自分の成長を振り返らせるため，学習前の古代のイメージと比較させた。

(2)　中世の導入

①　ねらい

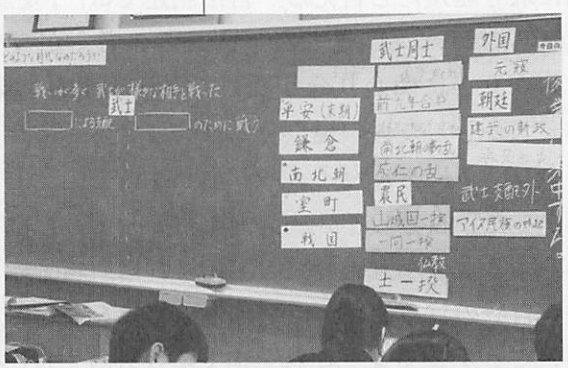
中世の歴史的事象に関する関心を高め，中世の特色を主体的に追求していこうとする意欲をもつ。

② 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の発問 ・生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価
1 古代と中世の違いに気付く。 （全体）	5	○古代までの日本（後半）はどのような時代だったのだろう。 ・天皇や貴族が政治 ・律令国家など ○平安時代の末期で古代から中世になるのはなぜだろう？ ・武士の時代になった。 ○武士とは？ ・戦う人 ○中世は戦いが多いのかな？	○古代から中世の時代の転換を意識させるため，古代までの特色を振り返らせたり，聖武天皇と源頼朝の肖像画を比較させたりした。
2 中世の戦いとその相手について調べ，話し合う。 （班→全体）	28	○どんな戦いがあり，誰と戦っているのか調べてみよう。 ○時代ごとの戦いを見て，また戦いの相手を見て気付くことは何だろう。	 班で調べている様子
3 単元を通した学習問題を知り，追究する内容を考える。 （個人→小集団→全体→個人→全体）	17	・中世は戦いが多く，様々な相手と戦っているのだな。 ↓ ○それはなぜか，「支配者」と「戦う武士」の立場から予想してみよう。 ・武力で支配するようになった。 ・鎌倉時代の武士は領地のために戦っていたな。 ○中世を通して，戦いに領地が関係していることを確かめるためには，どんなことを調べればよいだろうか。 ・戦いの原因と結果 ・領地の移り変わり ・武士や農民の生活	○中世の戦いについて，多面的な思考を促すために戦いを時代ごとと相手ごとで考えさせた。 ○多面的に思考し，意見を練り合うことができるように，二つの立場に分けて考えさせ，意見交換をさせた。 ○中世のまとめのイメージ画を想像させ，学習の見通しをもたせた。 ◇領地を意識して，調べる内容が書けているか。 （ワークシート）



時代ごとに分類した板書



戦った相手ごとに再分類した板書

学習問題	中世を通して，戦いと領地は関係があるといえるのだろうか

3　研究の成果と課題

①　問題解決的な学習の充実について

中世の戦いについて調べ，全体で共有化することで，中世は戦いが多い，それはなぜかという疑問をもたせることはできた。しかし，「戦い」から中世の特色を捉えさせるための鍵となる「領地」を捉えさせる活動は，歴史の得意な生徒の発言をつないで強引に導く形になってしまった。武士の支配の仕組みや領地という概念を理解できていないままであったことが原因として考えられる。鎌倉時代の学習をある程度進めた段階で実践する方が時代の転換点を捉える上で生徒の思考に沿うものになると考える。課題意識が高まるまでには至らなかったが，「領地」という鍵をもって中世を見ていくということは意識付けられ，その後の毎時間の授業の中で社会的事象に領地が関わっていることを確認できるよう単元の計画を見直した。生徒の一部が総合的な学習の時間の活動で地域の博物館を訪れた際には，中世の説明の展示物に「土地」という言葉を見付け，「やっぱり土地って書いてある！」と感嘆の声があがった。

②　言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実について

イメージ画の意見交換の生徒の自己評価では，「聞く相手を意識して分かりやすく伝えた」の項目で（４段階評価の４が最高，調査生徒80名），４が37名，３が40名，２が３名，友達のイメージ画の説明が分かった」の項目では，４が68名，３が12名と大部分の生徒が相手意識をもって活動に取り組んだと言える。自由記述では，「友達の話を聞いて新しい発見ができた」「考えが深められるのがいい」「自分の考えと人の考えがつながるとおもしろい」などの意見があり，生徒どうしが互いに関わり合うことでより多面的な見方や考え方ができたことを実感できた生徒も多い。しかし，友達の視点を入れ，自分の考えを再構築して，古代の特色をまとめた文章は，オリジナリティに富んだイメージ画と比較し画一的な表現が多く，自分の言葉になっているとは言い難かった。自分のイメージ画を紹介し合うだけでなく，お互いの考えに切り込んだり，揺さぶったりするような意見交換の場にすれば，自分の考えに向き合うことになり，生徒自身の思考の中から自分の言葉が紡ぎだされるのではないかと考える。また，自由記述には「イメージ画に描きたいことが多くて，どれを捨てるか迷う」「小さな枠の中にどう表現するかで，いろいろな選択ができてよい活動になった」というものもあった。イメージ画に描くモチーフを選択するために，その時代の一番の特色が何かを様々な事象の中から取捨選択して導き出すことは，時代の流れを捉える見方や考え方を育てることになると考える。

中世の導入では，立場の違う男女のペアでの話合いから「領地」を捉えさせたいと考えたが，生徒の思考に沿うものでなかったため，十分に自分の考えをもたせることができないままの話合いになり，練り合うことができなかった。全体の場では，歴史が得意な生徒が根拠をもって自分の考えを述べ，その発言を基に小学校の学習内容を思い出した生徒もいた。全員の生徒が自分の意見を根拠をもって発言できるような場の設定を工夫していきたい。

③　豊かな自尊心・自尊感情の醸成について

イメージ画の活動の感想の中には「友達にほめられてうれしい」「説明を分かってもらえるとうれしい」「新しい発見ができた時，うれしい」など「うれしい」という表現が多くあった。この「うれしい」や「分かった，分かってもらえた」という気持ちはさらによりよく伝えたいという意欲につながったと言える。一方で，「人に見せるのがこわい」「恥ずかしい」という意見もあり，支持的な風土をつくっておくことの重要性を感じた。また，イメージ画を描くことや他者に説明することを通して自分の理解がより深まった，学習前後の中世のイメージを比較することでより多面的なイメージができるようになったことを実感できた生徒も多い。

研究（その３）

公民的分野「現代社会を捉える見方や考え方」の実践より

（実践者）宮本　真人

１　本単元の概要

(1)　単元目標

観　点	単元目標
社会的事象への関心・意欲・態度	○　社会生活における物事の決定の仕方，きまりの意義に対する関心を高め，それらを意欲的に追究し，今後の社会生活に生かそうとしている。
社会的な思考・判断・表現	○　社会生活における物事の決定の仕方，きまりの意義について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	○　社会生活における物事の決定の仕方，きまりの意義に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表にまとめたりしている。
社会的事象についての知識・理解	○　社会生活における物事の決定の仕方，きまりの意義，現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての対立と合意，効率と公正などについて理解し，その知識を身に付けている。

(2)　単元設定の理由

本単元は，物事の決定の仕方やきまりの意義などを考えさせることを通して，対立と合意，効率と公正などの現代社会を捉える見方や考え方の基礎を養うことを主なねらいとしている。

社会は考え方や価値観が異なる個人によって形成されている。つまり，社会の中で個人と個人はある意味で対立状態にあると言える。このような対立を含んだ集団が合意形成をしながらよりよい社会を築いていくためには，「効率と公正」などの見方や考え方に基づいて物事を決定していかなければならない。この意味において，現代社会が個人の尊厳を基盤とする「対立と合意」「効率と公正」という見方や考え方によって捉えることができるということを理解させることは，「持続可能な社会を築く力」を育む上で大切だと言える。したがって，これらの見方や考え方は，公民的分野の学習全体を通して繰り返し活用して広く深く成長させる必要がある。そのため，公民的分野の学習の導入である本単元において，これらの見方や考え方を確実に習得させることは極めて重要である。

(3)　指導の工夫

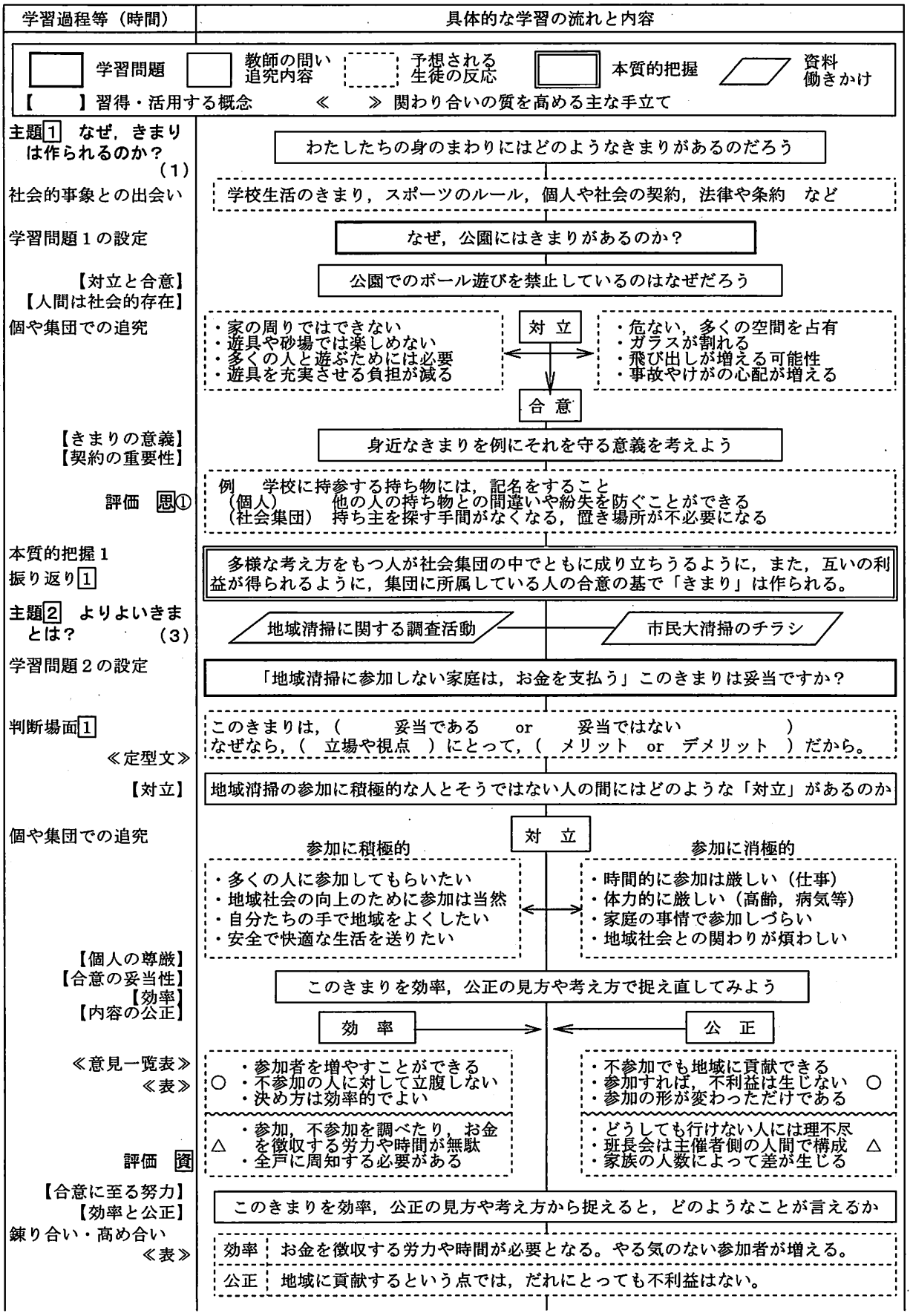
本実践において本領域の研究テーマ及び本校の重点目標に資するために，前述の１章２の研究の内容と方法及び生徒の実態から，本単元では次のように指導の工夫を設定した。

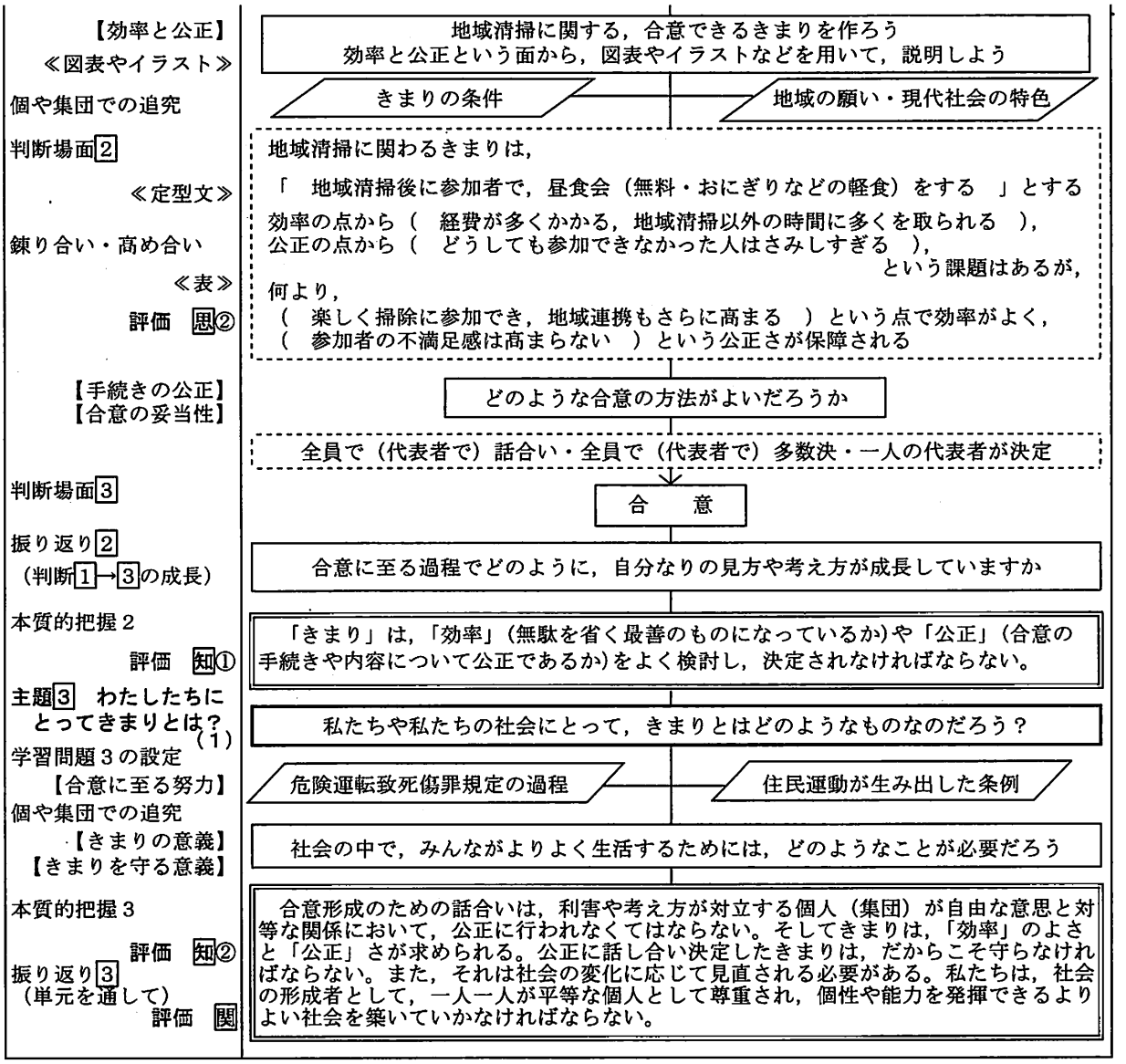
≪工夫①≫　問題解決的な社会科学習の充実
　生徒にとって身近な題材の教材化と習得・活用させる概念を想定した質の高い「問い」の設定
≪工夫②≫　言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実
　多面的・多角的な思考及び社会的な見方や考え方の成長につながる表現方法の開発とその効果的な活用
≪工夫③≫　豊かな自尊心・自尊感情の醸成
　社会的な見方や考え方の成長を振り返らせる場面の効果的な設定

単元目標が達成されたかどうかについては，効率的・効果的な評価ということを念頭に置いて評価計画を立案し，各場面において教師が着実に見取り，指導に生かした。

(4) 指導計画および評価計画の立案

設定した指導の工夫を単元に適応し，次のように指導計画（全５時間）を立案した。





また，評価計画は以下の通りである。

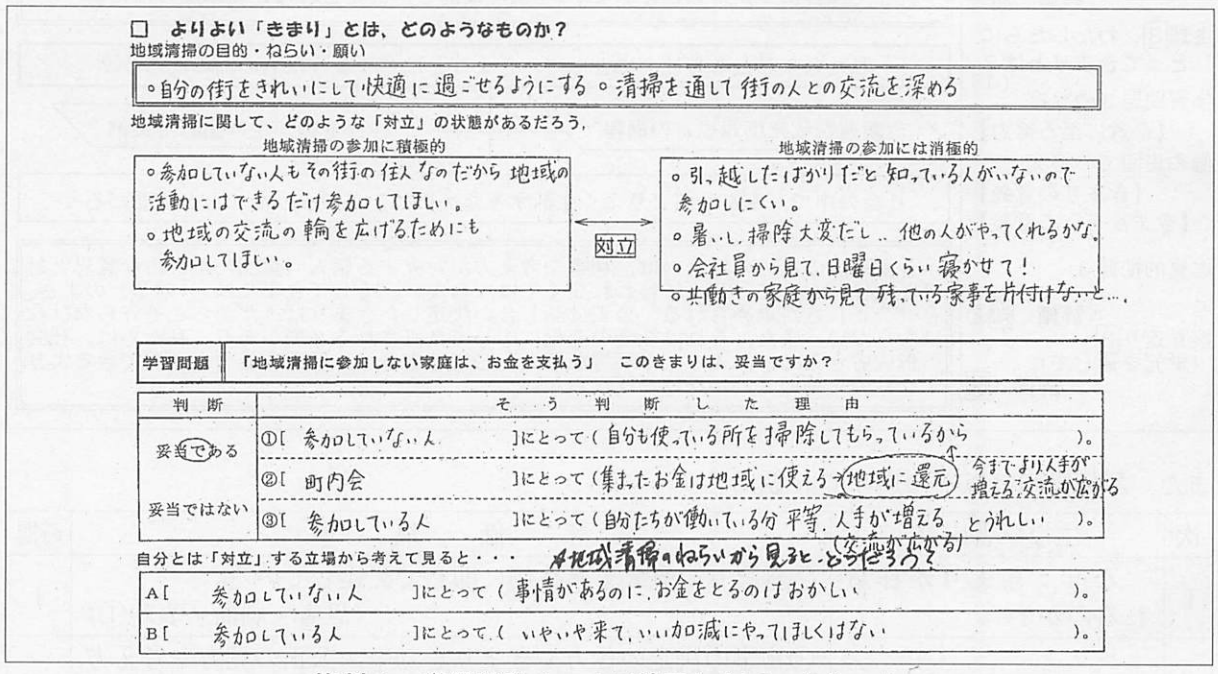
次	主な学習内容	評　価　規　準	時間
1	なぜ，きまりが作られるのか？	○きまりの意義を具体例に即して記述している。（思考・判断・表現①）	1
2	よりよいきまりとはどのようなものか？	○物事の決定の仕方やきまりを効率，公正の見方や考え方から説明するために有用な情報を調査活動などを通して収集し，図表等にまとめ活用している。（資料活用） ○地域清掃におけるきまりを，対立，合意，効率，公正などの見方や考え方から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を記述している。（思考・判断・表現②） ○効率が「無駄のない状態」であること，公正が「不利益を被る人がいない状態」，「みんなが参加して決定している状態」であることを理解して記述している。（知識・理解①）	3
3	わたしたちにとってきまりとは何だろうか？	○きまり（契約）を守ることがよりよい社会生活を送る上で重要であることを記述している。（知識・理解②） ○契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について記述している。（関心・意欲・態度）	1

2　研究の実際

主題②「よりよいきまりとはどのようなものか？」（全５時間のうちの２～４時間目）の実際

問いに気付く

学習活動（形態）	時間	○教師の主な「問い」	○指導の工夫
1　地域清掃の目的や地域の願いを確認する。（一斉）	7	○なぜ，地域清掃を行っているのだろう。	○生徒にとって身近な題材として地域清掃に関するきまりを教材化した。また，関係の深い人へのインタビューや地域清掃の様子をレポートにまとめさせたりした。≪工夫①≫
2　地域清掃に関する「対立」の状態を明らかにする。（個人→一斉）	8	○地域清掃に関してどのような対立があるだろう。	
		学習問題：「地域清掃に参加しない家庭は，お金を支払う」このきまりは妥当ですか？	
3　学習問題について，最初の判断し意見交換を行う。（個人→小集団→全体）	30	○このきまりに対する最初の判断をしよう。 ○判断の理由を挙げながら意見交換をしよう。	○多面的に思考，判断させるために，賛成及び反対の両方の立場から考察させるとともに，定型文の様式を工夫した。≪工夫②≫
4　意見交換を振り返る。（個人）	5	○意見交換から得た学びを整理しよう。	



□　よりよい「きまり」とは，どのようなものか？

地域清掃の目的・ねらい・願い

○自分の街をきれいにして快適に過ごせるようにする　○清掃を通して街の人との交流を深める

地域清掃に関して、どのような「対立」の状態があるだろう，

地域清掃の参加に積極的

○参加していない人もその街の住人なのだから地域の活動にはできるだけ参加してほしい。
○地域の交流の輪を広げるためにも参加してほしい。

対立

地域清掃の参加には消極的

○引っ越したばかりだと知っている人がいないので参加しにくい。
○暑いし，掃除大変だし…他の人がやってくれるかな。
○会社員から見て，日曜日くらい寝かせて！
○共働きの家庭から見て残っている家事を片付けないと…。

学習問題　「地域清掃に参加しない家庭は、お金を支払う」　このきまりは、妥当ですか？

判断	そう判断した理由
妥当である	①[参加していない人]にとって（自分も使っている所を掃除してもらっているから）。
妥当ではない	②[町内会]にとって（集まったお金は地域に使える→地域に還元　今までより人手が増える→交流が広がる）。
	③[参加している人]にとって（自分たちが働いている分平等．人手が増える　とうれしい）。

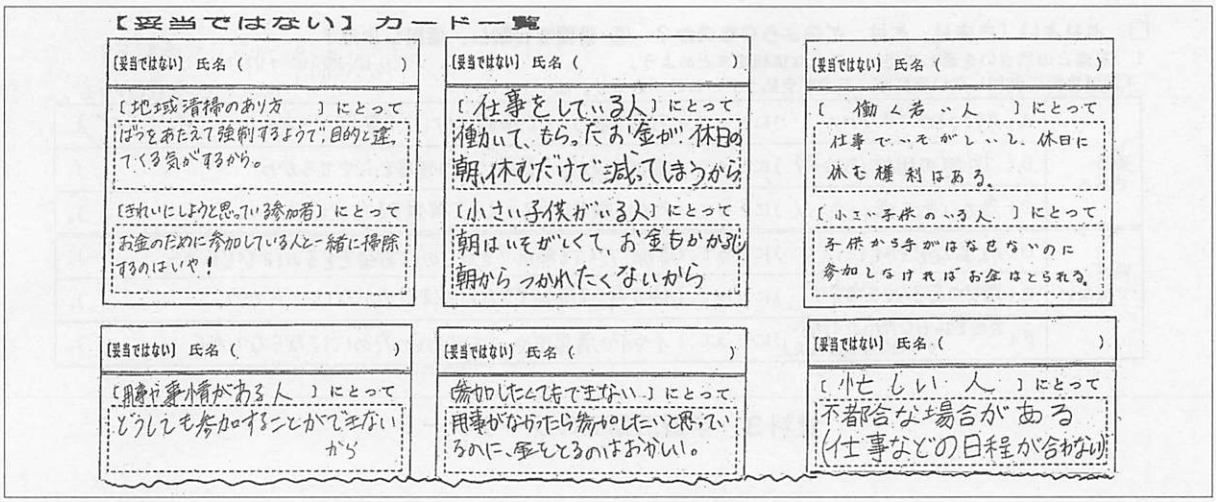
自分とは「対立」する立場から考えて見ると・・・　＊地域清掃のねらいから見ると…どうだろう？（交流が広がる）

A[参加していない人]	にとって（事情があるのに，お金をとるのはおかしい）。
B[参加している人]	にとって（いやいや来て，いい加減にやってほしくはない）。

資料１　学習活動１～４で使用したワークシート

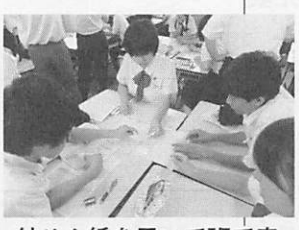
問いを探る

学習活動（形態）	時間	○教師の主な「問い」	○指導の工夫
5　自分とは違う立場の人の意見を知る。（一斉）	2	○意見一覧表を見て，自分とは異なる見方や考え方と出会おう。	○意見交換を効果的・効率的に行わせるため，全員の判断を一覧にしたプリントを配布した。≪工夫②≫
6　意見交換で互いの考えを出し合い自分の考えを広げたり深めたりする。（小集団→個人）	10	 意見交換の様子	○活発な意見交換を行わせ，多様な情報を収集させるため，教室内を自由に移動させながら意見交換を行わせた。≪工夫②≫ ○根拠のある話合い活動にするために，調査活動の成果を活用させた。≪工夫①≫



資料２　学習活動５・６で用いた意見一覧表（一部）

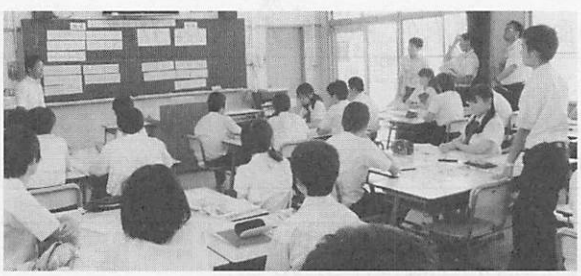
7　話合いを通して得た情報をまとめる。（個人） 8　様々な考え方を効率，公正の視点から捉える。 ①「効率」「公正」について知る。（一斉） ②　収集した情報を分類する。 （個人）→（小集団）	5 20	○参考になった意見をまとめよう。 ○不利益を被る人がいない状態を何というのだろう。「公正」 ○無駄のない状態を何というのだろう。「効率」 ○それぞれの意見を，効率，公正の視点から捉え直そう。	○得た情報を整理・分類しやすくするために，定型文を用いて情報をまとめさせた。≪工夫②≫ ○情報や思考を整理・分類させるとともに，効率，公正の見方や考え方を捉えやすくするために付せん紙を用いながら表にまとめさせた。≪工夫②≫
9　きまりを効率，公正の見方や考え方から捉える。 （個人）→（全体）	10		○表やホワイトボードを活用して全体の意見を集約した。≪工夫②≫
10　学習問題について判断を修正する。	3	○効率と公正の見方や考え方を基に，学習問題についての判断を修正しよう。	



付せん紙を用いて班で意見をまとめている様子

	効　率	公　正
○	• 参加者を増やすことができる • 不参加者への気持ちが和らぐ • 地域の結び付きが強くなる	• 参加（労力）・不参加（費用）の貢献度を平等にできる • 参加する人の不利益はない
△	• 参加不参加を調べる労力・時間やお金を徴収する（支払いに行く）労力や時間が無駄 • 嫌々参加する人が増える	• どうしても行けない（年齢・家庭・仕事など）人には理不尽 • 家族の人数が少ないほど，不利益が生じる可能性が高い

学級で集約した主な意見（板書より）



黒板の表を活用して発表している様子

○効率，公正の見方や考え方からどのようなことが言えるだろうか。

効率	効率的に参加者を増やせるが，やる気のない参加者も増加する
公正	地域に貢献できるという面では，だれにとっても不利益はない

生徒のワークシートより

□ よりよい「きまり」とは、どのようなものか？ ② 情報を分類し、活用しよう！

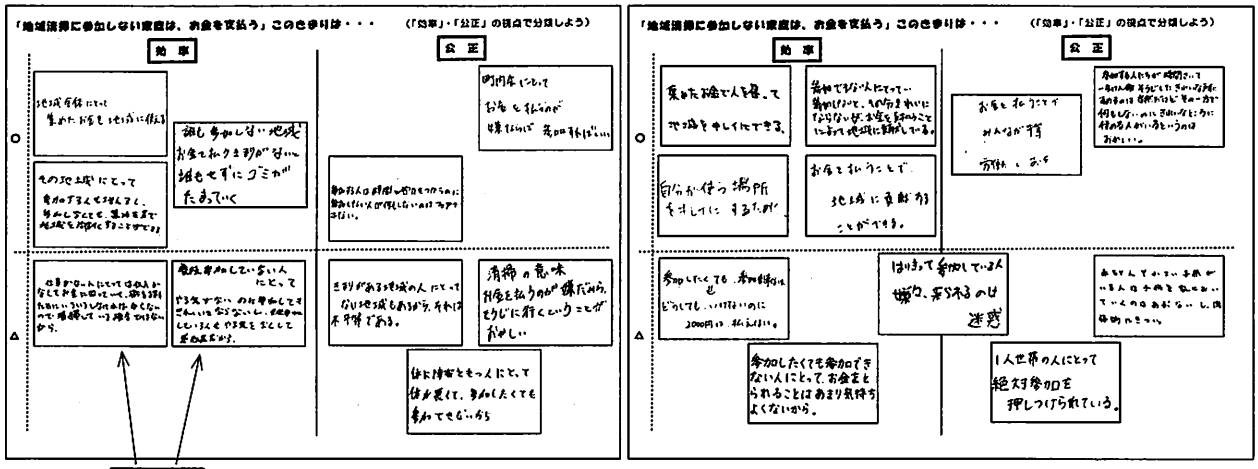
1 友達との話合いを通して得た、新たな情報をまとめよう。

「地域清掃に参加しない家庭は、お金を支払う」 この「きまり」は・・・

地域清掃のねらいを達成するうえで…という視点からも考えてみよう。

妥当である	A（行くことができない人 ）にとって、（お金を払うことで地域に少しでも貢献できるから ）。	
	B（地域の団体(自治会) ）にとって、（集めたお金で清掃に使う道具をふやせるから ）。	
	C（参加人数を増やしたい人 ）にとって、（参加人数が増えると人手を確保することができるから。 ）。	
妥当ではない	D（仕事などで忙しい人々 ）にとって、（参加したくても参加できないのにお金をとるのはひどいから ）。	
	E（障害のある人やお年寄り ）にとって、（体が弱くて参加できないのは仕方がないことだから ）。	
	F（お金を払わなければいけないから仕方なく参加した人 ）にとって、（イヤイヤ清掃をやっても地域のためにはならないから ）。	

資料３　学習活動７のワークシート



資料４　学習活動８②において小集団学習で活用した表

3 「地域清掃に参加しない家庭は、お金を支払う」

この「きまり」を、「効率」と「公正」の視点からとらえると、どのようなことが言えるだろうか。

効率	参加人数を増やすには効率的だがやる気のない人がたくさんいると掃除が効率的でなくなる。
公正	労働＝お金という面では平等だが、家族構成や経済状況によれば必ずしも平等ではない。

□ よりよい「きまり」とは、どのようなものか？ ③ 考えを広げ、深めよう

「地域清掃に参加しない家庭は、お金を支払う」 この「きまり」は妥当ですか？

判断2	そう判断した理由
妥当である	お金がない人など立場の弱い人のことが考えられていない。また嫌々来られてもかえって清掃の効率を下げてしまうのではないかと思う。
妥当ではない	

→ 集めてゴミが本当に必要なの？

お金がない以外の立場の弱い人のことも考えて

☆ 「地域清掃」に関するきまりは・・・

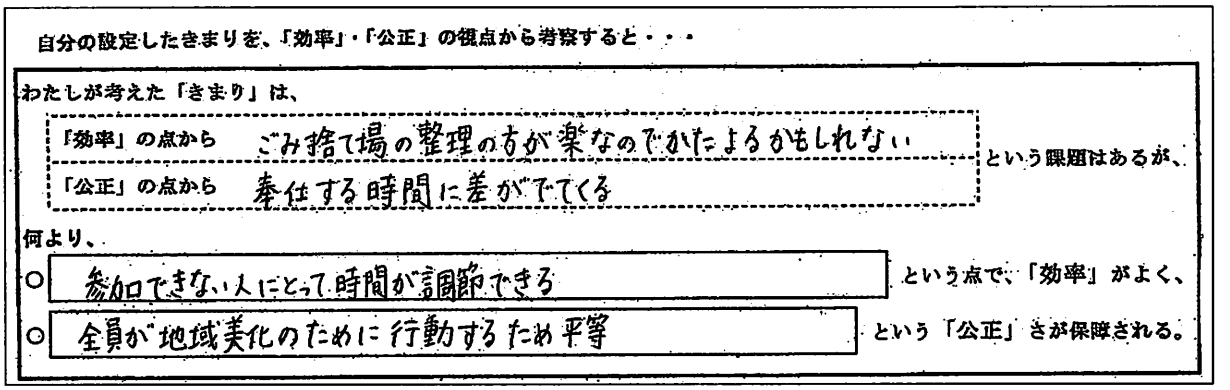
地域清掃に参加しない家庭は翌週 1日、ごみ捨て場の整理をする。

とするのがよい。

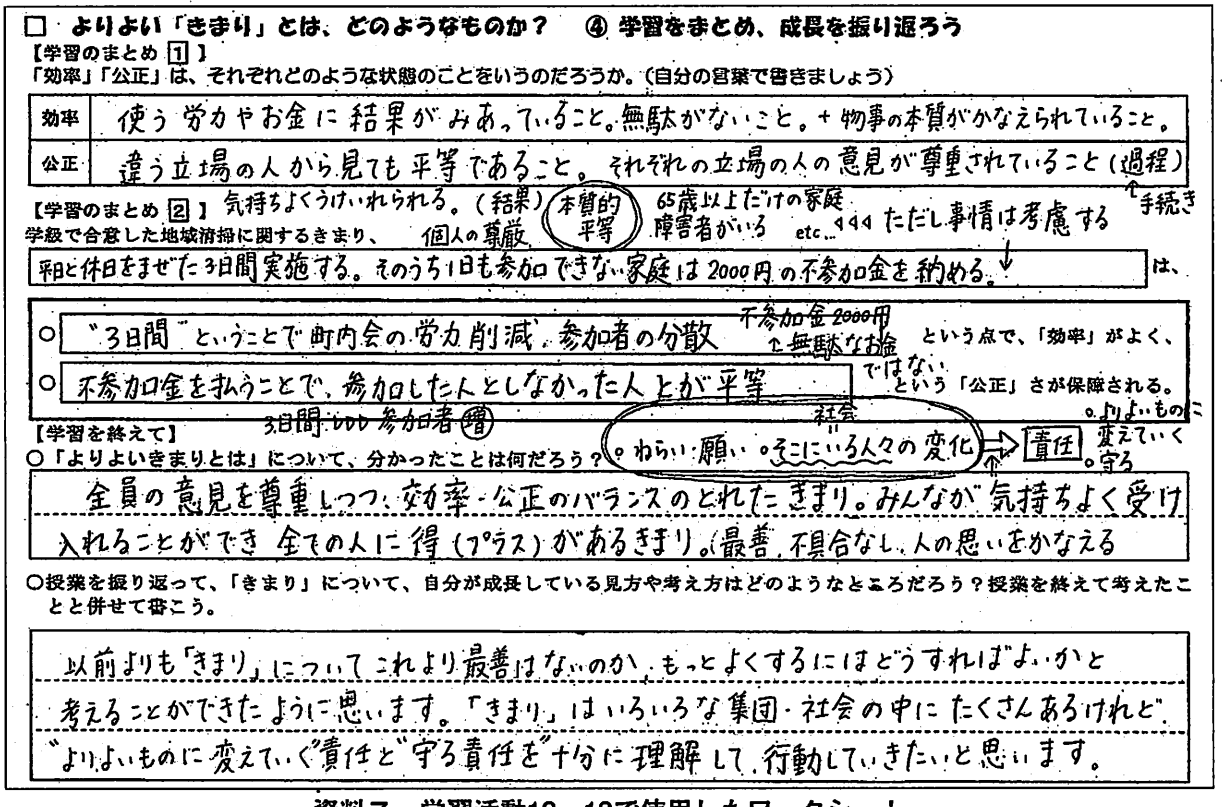
資料５　学習活動９・10で使用したワークシート

問いを解く

学習活動（形態）	時間	○教師の主な「問い」	○指導の工夫
11　地域清掃に関するよりよいきまりを考察する。（小集団→全体）	15	○きまりの条件を確認しよう。 ○各自で考えたきまりを基に，班で地域清掃に関するよりよいきまりを決定し，発表しよう。	○話合いの論点を明確にさせるために，定型文を用いて考えたきまりをまとめさせ，「効率」「公正」の見方や考え方で考察させた。≪工夫②≫
12　適正な合意の方法を確認し，学級全体で話合い，きまりを決定する。（全体）	25	○きまりはどのように作られるべきだろう。 ○地域清掃に関するきまりを決定しよう。	○地域調査の結果から，身近な地域ではきまりがどのように作られるかを捉えさせた。≪工夫①≫
13　本時及び本単元での学びを振り返る。（個人）	10	○授業を通して分かったことは何だろう。 ○成長した見方や考え方はどのようなところだろう。≪工夫③≫	



資料６　学習活動11で使用したワークシート



資料７　学習活動12・13で使用したワークシート

3　考察

前述の指導の工夫に沿って考察した。

(1)　研究の成果

① 問題解決的な社会科学習の充実について

○ 生徒の学習状況や授業後のアンケートより，身近な地域での調査活動が単元の学びに生かされることへの実感が，確実に追究意欲の高まりとなって表れることが確認できた。

○ 教師が習得・活用すべき知識や概念を想定して「問い」を設定することにより，単元の学習が進むにつれ確実に生徒の社会的な見方や考え方を成長させることができた。

○ 習得・活用させたい概念に関して，「なぜ」と問えば，習得した知識や概念を用いながら，生徒が自分の言葉で説明するため，社会的な見方や考え方の確実な成長につながることが，生徒のワークシートの記述や授業での発言から確認できた。

○ 習得・活用させたい知識や概念を「問い」の設定時に想定しておくことで，評価規準が明確になり，生徒の思考・判断の状況をより効率的，効果的に指導に生かすことができた。

② 言語活動及び生徒どうしが関わり合う場面の充実について

○ 意見一覧表を話合いの前に配布したことは，話合いの効率化につながるとともに，多様な見方や考え方があることを捉えさせることができた。また，そのことが，学習意欲の向上及び多面的・多角的な思考につながることが確認できた。

○ 定型文によって立場を明確にして表現させたことにより，多面的・多角的な思考を促すことができた。また，論点や自他の相違が明確となるため，生徒どうしの関わり合いがより質の高いものとなり，話合いを通して本質的把握に迫っていくことができた。

○ 表や付せん紙を活用して表現及び話合いをさせたことによって，現代社会を捉える見方や考え方を活用して思考・判断することが容易になるとともに，「学習のまとめ」等で記述したことの根拠を明確にしやすいことが，生徒の学習状況から判断できた。

○ 定型文や表を活用させることにより，生徒の思考の過程が，生徒，教師ともに分析・評価しやすく，生徒が自己の見方や考え方の変容を捉えやすく，また，的確な指導のための効率的，効果的な評価につながった。

③ 豊かな自尊心・自尊感情の醸成について

○ 定型文や表を活用させるなどして，生徒の思考を可視化させておくことにより，振り返りの場面において思考のターニングポイントが明確となり，成長したことを実感させやすいことが分かった。

○ 資料７などから，学習を振り返る時間や場を充実させることで，生徒が自分の成長に気付き次の活動への見通しをもったり，行動化への意欲につながることが確認できた。

(2)　研究の課題と今後の方向性

本実践は三つの主題においてそれぞれに違う教材，違う学習問題で単元の学習を構成した。しかし，「『地域清掃に参加しない家庭からは，お金を徴収する』なぜ，このきまりがあるのだろう」との学習問題で，主題[1]～[3]を構成することも可能であったと考える。そのほうが，よりスムーズに生徒の見方や考え方を成長させることができたのではないかと考える。学習内容を効率的及び段階的に発展，深化させることできるよう，学習の焦点を明確にすることや質の高い問いを設定することについて，さらに研究を進めたい。また，そのためにも，言語活動や関わり合う場面をさらに充実させる必要がある。今回活用した定型文や表については，上記のように一定の成果があったが，教師が提示した定型文や表では，表現あるいは分類しづらい内容のものもある。生徒の思考を妨げずに効果的に活用できる学習ツールの開発についてもさらに研究を進めていく必要があると考えている。

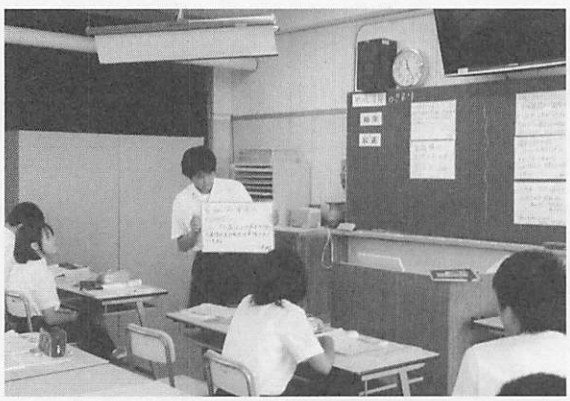
第3章　おわりに

以上，３分野でそれぞれ実践を行った。各分野ごとでの成果は次の通りである。

地理的分野では，練り合い高め合う場面を設定し，言語活動を充実させることで，学習をより深めるられることが分かった。また，その際にコミュニケーションボードを用いたことで，生徒が視覚的に共有した情報を活用して，自分の言葉で生き生きと表現する姿が見られた。

歴史的分野では，単元の導入時の課題意識を育成する工夫を行った。時代の特色を捉えさせるための鍵を見いださせるために，切り口を「戦い」という一つの視点に絞った展開とした。導入時に自分たちが見いだした，時代の特色を捉えるための鍵が社会的事象や当時の人々の生き方とどのように関わっているのかを追究していきたいという意識をもたせることができた。

公民的分野では，教師が習得・活用すべき知識や概念を想定して問いを設定することが生徒の社会的な見方や考え方の確実な成長につながることが確認できた。また，生徒の思考を可視化させるなどの工夫を行い，学習を振り返る時間や場を充実させることで，生徒が自分の成長に気付き，主体的に行動していこうとする意欲につながることを確認できた。



堂々と自分の意見を発表する様子

その一方，課題として考えられるのは，学習問題の設定や授業の展開をいかに生徒の思考や意識の流れに沿うものにしていくかということである。言語活動や生徒どうしの関わり合いにおいて得られた多面的・多角的な思考をよりスムーズに生徒の見方や考え方の成長につなげていきたいと考える。そのためには，さらに学習内容の焦点化を図り，より質の高い問いを設定していくことが必要である。また，生徒が自己の成長を振り返る評価場面の設定を心がけたが，学習を通して高まった自尊感情や意欲の見取りについては，評価の方法，項目，規準等を再考していく必要がある。

今回の研究および授業実践は，研究の最終年次として，これまでの研究の成果と課題を踏まえて行った。「持続可能な社会の形成」「公共的な事柄に自ら参画する」などのキーワードを基に，生徒の社会的な見方や考え方，および，思考力や社会的判断力を培い，これからの社会を形成していく力を育成したいという思いで，様々な手立てを考え実践し，この三年間で一定の成果を挙げることができた。また，本校の今年度の重点目標である「豊かな自尊心・自尊感情の醸成」を図るためには，生徒相互の関わり合いを通して得た学びや成長を，生徒自身が自らに問い，自覚させることが効果的であることが明らかになった。

今年度，学習指導要領が全面実施となり，これまで以上によりよい社会の形成に主体的に参画する態度を養うことが求められている。社会科の学習で生徒が身に付けた見方や考え方，社会的判断力や行動力が，生徒の中で生涯にわたり，社会と関わりながらよりよく生きるための指針となるよう，さらに研鑽を重ねていきたい。